

[大規模科学計算システム]

クラウドサービスAOBA-C用 バッチリクエストによるジョブの実行方法

情報部情報基盤課 共同研究支援係 共同利用支援係

1. はじめに

本稿は、以下資料「ジョブの実行方法」の付録として、クラウドサービス AOBA-C を利用する場合の事項をまとめたものです。以下と併せてご覧ください。

マニュアル一覧：<https://www.ss.cc.tohoku.ac.jp/manual/>

→ AOBA-A,AOBA-B 共通

→ 「ジョブの実行方法」

以降「既存システム」は、既存の AOBA システム (AOBA-A、AOBA-B) を指します。

2. バッチリクエストの概要

AOBA-C のバッチリクエストの投入は、AOBA-C フロントエンドサーバで行います。実行に必要なプログラムとデータおよびジョブスクリプトは AOBA-C のストレージに準備する必要があります。既存システムからは投入できませんのでご注意ください。

バッチリクエストの実行の流れは既存システムと同じです。

3. キュー構成

AOBA-C のリクエストの投入先 (キュー) について説明します。

表 1 に、AOBA-C のキュー構成を示します。ジョブスクリプトで、投入キュー名、利用 VE 数/ノード数、最大経過時間を指定します。

表 1 クラウドサービス AOBA-C のキュー構成

利用形態	キュー名	VE 数	実行形態	最大経過時間 既定値/最大値	メモリサイズ
共有	sxc	1	1VE (VH を共用する)	72 時間/720 時間	48GB×VE 数
		2~512	8VE 単位で確保 (VH を共用しない)		
占有	個別設定				

(VH : ベクトルホスト、VE : ベクトルエンジン)

既存システムと同様に、AOBA-C フロントエンドサーバ上での会話型での実行は、AOBA-C フロントエンドサーバに高い負荷がかかります。他の利用者への影響だけでなく、システム全体が正常に動作しなくなる恐れがあるため、行わないでください。負荷の高いプロセスは、管理者にて強制終了する場合があります。

4. バッチリクエストの作成

既存システムと同じです。

ただし AOBA-C に限り、qsub コマンドのオプション「-m」を指定する場合は、必ず「-M」でメール送信先を指定してください。指定しない場合メールは送信されません。

5. バッチリクエストの投入

6. バッチリクエストの実行

7. バッチリクエストの状態確認

8. バッチリクエストのキャンセル

9. バッチリクエストの終了

既存システムと同じです。

10. マニュアル

既存システムと同じです。

11. おわりに

本稿では、AOBA-C のバッチリクエストの投入と確認方法についてご紹介しました。センターの計算資源を効率的にご活用いただければ幸いです。ご不明な点、ご質問等ございましたら、お気軽にセンター（利用相談）までお問い合わせください。

利用相談：<https://www.ss.cc.tohoku.ac.jp/consultation/>